

事務局 江別市大麻園町
29-11
発行責任者
会長 多米 豊
TEL, FAX 011-386-5347
北大教育学部同窓会

鈴木 朝英 先生揮毫

御挨拶——学部長として



66年卒 教育史

同窓会のみなさんはその後も御健勝のことと存じます。昨年の総会には例によつて多士済々、談論風発といった体で、楽しいひとときでした。多米会長・小島幹事長には、学部における卒業式・祝賀会に御参列いただき、また御祝いの品を頂戴しましたこと、厚く御礼申し上げます。

この四月一日には、新たに国立精神・神経センターから田中康雄教授（教育臨床心理学）、愛知教育大学から坪井由実教授（教育心理学）、鹿児島国際大学から上原慎一助教授が着任し、矢野徳郎助教授が教授と、浅川和幸助手は八月に助教授となりました。また、言語文化部に所属する伊藤 章教授、小川泰寛教授、工藤正廣教授、ボール・ステイブルトン教授、竹本幸博教授、寺田龍

男助教授、長野 督助教授、野澤俊敬教授、築田憲之教授、李 明玉助教授、留学センターに所属する関道子教授や十一人の教員が、協力講座・多元文化教育論講座として教育学研究科に参画することとなりました。

これらは相当な様変わりです。

各グループの教員の現況

とそれぞれの研究課題は以下のようです。

◇教育史・比較教育グループ

椎名 恒（助教授）：社会政策・建設労働問題

上原 慎一（助教授）：中小企業・鉄鋼業における労働問題と教育訓練、県外就職が主たる地域における高

校生の就職問題

札幌アスペンホテル2F

一、午後6時より約2時間
一、札幌市中央区北生条西5丁目

札幌駅地下北口の「北大方向へ」の看板から地上に出ると前の10階建

一、会費 5000円
年会費未納の方は年会費2000円
を同時に納入下さい。

同窓会総会案内

(毎年10月第三木固定)

一、平成16年10月21日(木)

1、午後6時より約2時間

札幌アスペンホテル2F

札幌駅地下北口の「北大方向へ」の

看板から地上に出ると前の10階建

一、会費 5000円
年会費未納の方は年会費2000円
を同時に納入下さい。

史学、比較教育学
北村 嘉恵（助手）：台湾
先住民教育史、植民地教育
会教育学

丸山美貴子（助手）：社会
教育学、生産・労働学習論、
協同組合論

河西 哲子（助手）：認知
心理学、認知神経（脳）科
学

河山 順一（助教授）：認知
心理学、認知生理学、認知精神心

理学

学

福社、国際福祉

福祉論

佐々木 宏（助手）：社会

心理学

青木 紀（教授）：教育

教育史

福社論

佐々木 宏（助手）：社会

心理学

心理学

発達心理学、児童発達

グループ

佐藤 公治（教授）：発達

心理学

心理学

教育心理学

心理学

私の仕事と感情



とができます。この手帳の判定が主な業務のひとつです。本人には知能検査と面接を行い、保護者等からも聞き取り面接を行います。そして、知能検査のIQ、本人の様子、聞き取りからわかる本人の状態から総合的に考え方帳の判定を行います。手帳が該当するか、本人にとつて何が有益なのか、全体の会議で議論が起ることもしばしばあります。

もうひとつの大業務は本人や家族の方などからの相談に乗ることです。本人の生き方について一緒に悩み考え、少しお手伝いをさせてもらうような感じです。ただ、困っていることがありますから相談するのであって簡単に解決できるようなものは残念ながらそういったのです。自分が人生の達人で、何でも解決できればいいのにと思うことがよくあります。

仕事をするようになります。したが、今のところ私自身に変化はそんなにありません。大学時代に教育福祉ゼミで貧困などについて勉強し、頭では社会には様々なる暮らしを送っている人々が



’76年卒
臨床心理

いることを理解しているつもりでした。今の仕事をして良かっただことのひとつは今までに自分が知り得た人生とは明らかに異なる人生を送っている人々がいることを実際知ったことです。考えさせられることも非常に多く、悩むこともありますがとても興味深いです。様々な人と出会い、様々なことを経験し、悩みつつも前向きに社会経験値をあげていけたら、と思っている今日この頃です。

——☆——☆——

卒業から三〇年、人生未だ大志をいだき開始中

76年卒 臨床心理

長根光男



新しい改革のうねりと先の展望が開けない時代でした。同様に私も、いずれ研究者になりたいと心ひそかに思ふ教育学部に学士入学したものの、自分自身の確かに思ふ将来の展望が見えず、中央ローンにひとり寝転び雲の行方を見ていることも多くありました。

私は卒業後は、札幌市の小学校教員として何年か過ごしたのち、修士課程に進学したいと思つていました。しかし頼みの札幌市からは採用通知はこなく、やむなく傷心を抱きながら埼玉県の公立小学校教員になりました。埼玉赴任後まもなく結婚し子どももでき、つい数年前まで第一線で教諭として勤めきました。一方、少しづつ論文も書いていました。ある日何気なく見ていたインターネット上で、千葉大教育学部で教育現場経験者の教官を公募していました。首尾よく平成一五年四月に採用され、現在教育心理学教室に在籍しています。同じ一号館に二五年期生の教育方法の大田邦郎先生もあり、私の顔をどこ

かで見たことがあると言つてくれました。

さて、私の埼玉県の小学教員時代は本当に夢中になつて取り組んだ三〇年間でした。夜の九時頃まで授業準備に打ち込んだり、授業ではいつもギャグを言つては子ども達を笑わせたり、教え子のピアノやバレーの発表会を見に行つたり、子ども達と一緒に小動物の世話をしたり、理科主任として理科室の管理にも力を注ぎました。保健分野における文部科学省の委嘱研究の研究主任としても頑張りました。でも反面、子どもへの対応や指導がうまくいかず、悩むことも多くありました。子ども達に十分な学力をつけさせたのだろうかと今も反省しています。この実にさまざまな経験、ほろ苦い経験、すべてを次代の学生や若い教師に授業やゼミで伝えたいと思つています。

振り返つてみると私は、当時発達心理学のゼミに在籍していましたが、比較的多く本は読んだものの、今まで交際のある阿久津君らとアルコール、マージャンやスキーなど「社会勉強」

が分かりました。みな質実、剛健な雰囲気でした。だから最近のおしゃれをし過ぎた学生には、もっと学生らしく素朴に実直に生きてほしかりです。だから今日は本当に新鮮さを感じました。

島先生からは研究の意欲を貰いました。狩野先生の難解な講義のなかでの脳科学的真実、北島先生の事象の客観的な分析方法、中川先生の生理学など今思い出します。子ども達が身体の本来の姿から相当ずれており、それが結果的に意欲のなさ、抑うつ、不登校や引きこもりを招いていると思います。

音楽にのめり込むきっかけを与えてくれたのは、今は亡き父である。旧制中学四年の折、突如ケースのない中古のヴァイオリンと弓を目の前に出され驚かされました。小学生の頃、ハーモニカを愛奏していたので、高音楽器を弾かせたかったものと思う。ゴセックのガボットやドヴォルザークのユモレクが好きな父であった。

北大教育学部音楽専攻に進むきっかけを与えてくれたのは、一年先輩の唐津愈さんである。小樽市緑町の

ましたが、教育学部同窓会

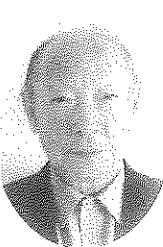
に自分を振り返る機会を与えて下さったことに深く感

謝申し上げます。卒業生の皆様方の今後益々のご健勝

とご発展をお祈りいたします。

——☆——☆——

音楽と人々との出会い



’55年卒 音楽
小林 譲

音楽にのめり込むきっかけを与えてくれたのは、今は亡き父である。旧制中学四年の折、突如ケースのない中古のヴァイオリンと弓を目の前に出され驚かされました。小学生の頃、ハーモニカを愛奏していたので、高音楽器を弾かせたかったものと思う。ゴセックのガボットやドヴォルザークのユモレクが好きな父であった。

北大教育学部音楽専攻に進むきっかけを与えてくれたのは、一年先輩の唐津愈さんである。小樽市緑町の音楽と人々との出会いについて、筆者は自分の経験を語っています。音楽を通じて、多くの人々との交流があり、特に父の影響を受けたことや、音楽を通じて得た貴重な経験について述べています。また、音楽に対する情熱と努力が、その後の人生に大きな影響を与えたことを示唆しています。

音楽にのめり込むきっかけを与えてくれたのは、今は亡き父である。旧制中学四年の折、突如ケースのない中古のヴァイオリンと弓を目の前に出され驚かされました。小学生の頃、ハーモニカを愛奏していたので、高音楽器を弾かせたかったものと思う。ゴセックのガボットやドヴォルザークのユモレクが好きな父であった。

北大教育学部音楽専攻に進むきっかけを与えてくれたのは、一年先輩の唐津愈さんである。小樽市緑町の音楽と人々との出会いについて、筆者は自分の経験を語っています。音楽を通じて、多くの人々との交流があり、特に父の影響を受けたことや、音楽に対する情熱と努力が、その後の人生に大きな影響を与えたことを示唆しています。また、音楽に対する情熱と努力が、その後の人生に大きな影響を与えたことを示唆しています。

中川則夫先生にご指導をいただいていた折、同じ門下の唐津さんに出会い、教育学部音楽専攻のお話を聞き、一念発起して末席で学ぶことになる。声楽家の故村井満寿先生のご薫陶を得て、弦楽器で歌うことを教わる。

朝、旧手宮駅から六時過ぎの汽車で一時間一〇分かけて通学。(今では四〇分前後で走っている)帰りは終列車で小樽駅へ。駅から高島町の自宅まで一時間歩く。最終バスが間に合わず歩くことになる。暗い夜道は人通りがなく、歌の練習にはうつつけである。

とにかく、終列車までの間一人一倍ピアノの練習をしなければ末席からはじき出されかねないのである。したがって、学校では空き時間に中央講堂の長椅子や池の回りの芝生で横になり仮眠をとるのがしばしばである。

在学中、札幌放送管弦楽団でヴァイオリンを弾かせていただき、オーケストラの勉強をさせていただく。

当時、放送局は中島に在り、学校から徒歩で通う。また、教育学部付属幼稚園で、鈴木鎮一メソードによる音楽早期教育の実践で、

唐津さんとヴァイオリンを教え、幼児への指導法を学ばせていただく。さらに、當時の文学部心理学の結城錦一先生のお計らいで、唐津さんと東京から夜行列車に揺られ、長野県松本市へ行き、鈴木鎮一先生の各支部合同によるレッスンを拝見。信州大学講堂で二〇〇名程の子どもたちの演奏したすばらしい音が、今でも耳に残っている。

卒業後、小樽双葉女子学園高校、岩内第一中学校、羽幌高校、深川東商業高校、登別高校と渡り歩き、畠違いの吹奏楽の創設を任せられ、苦労が多かつたが、生徒との厚いつながりができ、年々年賀状の数が増す。

退職後は、暑からず寒からず、雪が少ない登別に根付いてしまう。

登別に赴任した途端、室蘭市民オーケストラに勧誘され、二二年間続いている。現在、札幌の弦楽合奏団「ラーラ」の指揮者である安斎哲郎先生(元室蘭市立病院長)と長いお付き合いをさせていただいている。

まさに、室蘭ジユニアオーケストラの副団長から団長へと二〇年間勤めさせていたが、今年三月、大過なく定年を迎えたが、今では毎週一回で、さとうきび畠、北の国から、芭蕉布、千の風になつて等々二〇数曲をこなせるようになる。

私は順調に老化を続けながら、今年三月、大過なく定年を迎えたが、今では毎週一回で、さとうきび畠、北の国から、芭蕉布、千の風になつて等々二〇数曲をこなせるようになる。

私は順調に老化を続けながら、今年三月、大過なく定年を迎えたが、今では毎週一回で、さとうきび畠、北の国から、芭蕉布、千の風になつて等々二〇数曲をこなせるようになる。

ただ、多くの父母や音楽仲間ができる。

唐津さんとヴァイオリンを教え、幼児への指導法を学ばせていただく。さらに、

地域にあつては、町内会の副会長を経て、現在は会長と福祉部長を兼任し、小

さまで、今年六月から老人大学の学生によるハーモニカグループの講師を引き受け、ボランティアし楽

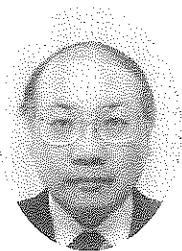
しんでいる。以前は、毎月一回の練習で、同じ童謡を繰り返していたが、今では

ただ、多くの父母や音楽仲間ができる。

園教員養成所（一九三九—一九四四年）について発表しました。今年は同じく教育史学会で「品川台場の浮浪児達——東水園の歴史」を発表します。一九四六年に水上警察署が品川第五台場に設置した浮浪児施設・東水園を対象として、浮浪児と浮浪児「狩込」の実際ひとびとの浮浪児へのまなざしを描こうと思つています。難題です。

◇二年生のキャンプ（八月二三—二四日、北村）に参加しました。学生は二二人教員は僕と北村嘉恵さんでした。学生達は徹夜で話しこんでいましたが、僕は早々にテントの中で毛布にくるまつていました。炭火を起こすのは僕が一番上手でしたが、スタッフではそもそもいかないようです。久し振りに天の川を見上げて「夏の大三角」とアンタレスを眺め、流星を数えました。

発達心理学研究室の動きなど



文選二五 素八

教授
佐藤公治

教育学部・教育学研究科の同窓会の皆さま、今年は例年よりも暑い夏でしたがお元気にお過ごしのことと 思います。私が所属しています発達心理学研究室のことを中心に、近年の動向を述べることにします。同窓会の皆さんに分かりやすい名称としてここでは「発達心理学研究室」という旧講座制の時代のものを使つていますが、現在は大学院重 点化に伴つて私たちは教育臨床講座という大きな講座に属しています。このような近年の変化については、既にご存じのことと思いま すので、詳しいことを述べる必要がないと思いますが 実際の研究と教育のまとまっています。現在の私たちの

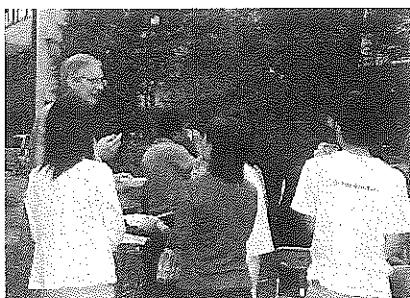
研究グループ（正確には児童・発達研究グループ）は佐藤、石黒、伊藤の三名の教員で構成しています。二年前からはそれまで一緒に研究グループを構成していた乳幼児発達臨床センターとは別のグループを構成することになりました。それでも研究活動や教育の面では密接なつながりを持っていますので、二つのグループは相互補完し合いながら様々な面で協力関係を持ち続けています。

皆さんも学部の時には参加された幼稚園の運動会が今年も七月に行われました。かなり前から幼稚園の運営の主体は乳幼児発達臨床センターの方に移っていますが、ゼミ所属の学生や院生さんたちの協力と競技への参加はいつもと変わりありませんし、小さな運動会ながらではの楽しさは変わらず続いています。今年は開始直前まで空模様が心配されましたが、子どもたちの気持ちが雨模様の空を吹き飛ばしてくれました。

昨秋の一ヶ月には、懐かしい研究室の顔ぶれが揃う出来事がありました。三宅栄夫先生が久しぶりに北海道心理学会における講演のために千葉から札幌に来られる機会があり、先生の喜寿のお祝いの集まりを持つことが出来ました。この企画と実行の労を取つていただいたのは関道子さんで、いつもながらも行動力を遺憾なく發揮していただき、楽しい一時になりました。北海道在住の方だけではなく遠く本州からも駆けつけていただき、三宅先生のお元気な姿から参加者一同は逆にたくさん元気をもらうことことができました。なお、関さんは現在は留学生センターの留学生指導部の教授として活躍されていますが、今年の四月から言語文化部の先生方と共に教育学研究科の協力講座（多元文化論講座）の一員として加わっています。

発達心理学研究室の教員はそれぞれの研究テーマに基づいて研究を進めていますが、共通の問題意識としては人間の発達を社会・文化化それらの歴史との関係の中で眺めていこうということがあります。このようないらい受け継がれてきました。

大地に根をはつて
—自治体教育行政学の創造—



ループのスタッフとして、愛知教育大学からやつてまいりました坪井でございままでの一〇年間、北海道の大地にしつかり根を張り学生・院生を育てていきたいと思っております。教育行政研究室では、教育制度研究室時代より、市川昭午、鈴木英一、山崎真秀、小出達夫、西本肇等の諸先生によつて、自由でオープンな議論を大切にする学風が築きあげられてきました。同僚の横井敏郎さんとともに、この良き伝統を受け継ぎ、今日の学校経営や教育行政の実践的課題と切り結んだ教育行政学の研究を押し進めています。

この四月、教育行政学ダ
坪井由室
教育計画講座教授

大地に根をはつて
—自治体教育行政学の創造—



ループのスタッフとして、愛知教育大学からやつてまいりました坪井でございまして。愛教大での二六年間の教育研究実践を糧に、定年までの一〇年間、北海道の大地にしつかり根を張り学生・院生を育てていきたいと思っております。教育行政研究室では、教育制度研究室時代より、市川昭午、鈴木英一、山崎真秀、小出達夫、西本肇等の諸先生によって、自由でオープンな議論を大切にする学風が築きあげられてきました。同僚の横井敏郎さんとともに、この良き伝統を受け継ぎ、今日の学校経営や教育行政の実践的課題と切り結んだ教育行政学の研究を押し進めでまいりたいと思つております。

また、北大教育学部の創設にご尽力された城戸幡太郎先生は、戦前、教育科学研究会を組織した時の理念を北大教育学部創設のミツシヨンとして生かし、社会科学の諸分野の成果を土台にした教育科学の創造をめざしたことによく知られています。そこで、研究対象はまぎれもなく教育実践であり、教育科学の創造は教育

実践の科学化でした。教育行政学研究室では、学校経営実践や教育行政活動の民主化と計画化をめざすなかで、科学としての教育行政学の創造と発信に努めたいと思つております。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

私自身は、わが国の市町村自治体における教育行政・学校経営改善の実践的プログラムを作成するため、外国特に米国との比較研究の視点を取り入れながら、教育委員会制度研究をすすめています。ニューヨーク市学区やシカゴ学区など六つほどの大都市をフィールドとし、そこにおける教職員人事、教育課程、学校財政など教育委員会が所掌するあらゆる教育行政事務の在り方と、政策分析及び政策評価、さらには学校運営協議会などの教育行政・学校経営のシステム改革の研究をすすめております。

現在は、日米で研究チームを編成し、学校（自己）評価活動に関する国際共同研究プロジェクトも進行中です。また、教育長及び校長の職能向上プログラムの開発を、日本教育経営学会や日本教育行政学会の特別プ

同窓生の皆さんの中には、教職の道にすすめたもの、教育長・指導主事など教育行政専門職員としてご活躍の方々もおみえのことと存じます。北海道地域はもちろんのこと、全国各地の学校と教育行政の実践現場から、忌憚のないこ意見や注文をお寄せいただければ幸いに存じます。これを真摯に受けとめ地域教育行政学の創造に生かしてまいりたいと存じます。

――☆――☆――

社會教育研究室近況



し、そうした学習活動を援助するような社会教育の理論的・実証的研究を続けております。一九九七・八年にこのような考え方にもとづいた協同研究の成果として「講座 主体形成の社会教育学」全四巻（北樹出版）を出版しましたが、いまその改訂版が求められているというところです。

相変わらず地域での調査研究を中心とした活動を続けておりますが、その対象や領域は大きく広がりつつ少しずつ変化しています。

一九八〇年代には農村や農民の研究が中心でしたが、九〇年代には大小の都市的地域を対象としたものが大きな位置を占めるようになつております。それまでの基礎構造、つまり地域の経済的・社会的状況をふまえた学習課題の解明を重点としたものから、より実践的と教育実践、そして社会的な研究、とくに地域づくりの研究へと移行してきています（代表的な成果は山田定市・鈴木敏正編『地

〔下〕筑波書房、一九九一、
山田定市編『地域づくりと
生涯学習の計画化』北海道
大学図書刊行会、一九九八。)
これらにともない、あく
まで北海道に根ざすことを
心がけながらも、とくに九
〇年代後半からは科学研究
費などを利用して調査対象
をひろげ、研究地域は東北
から九州まで、全国の実践
に拡がっております(その
成果は、二〇〇〇年に始ま
る『叢書 地域をつくる学
び』全一二巻プラスα、北
樹出版、などで刊行中)。
また、比較研究としては、
とくにイギリスの北アイル
ランドを重点とした共同研
究に取り組んできました
(代表的なものは、鈴木編
著『社会的排除と「協同の
教育』、御茶の水書房、二
〇〇一)、同『地域づくり教
育の新展開』、北樹出版、二
〇〇四)。

こうした中で今まで以上
に教員は忙しくなり、とくに
山田先生が退官された後
がたいへんでしたが、さい
わい、宮崎隆志助教授と私
に加えて、昨年度から丸山
美貴子さんに若手の代表と
して教員の仲間に入っていま
ただいて活気づいておりま

あまりで、とくに修士過程には社会人入学で入った方々が多く、生きた実践と経験を私たちの研究・教育活動に吹き込んでくれます。環境問題や地域づくり、協同組合活動、そして社会教育・生涯学習計画といった「北大社会教育研究室のおはこ」のテーマに加えて、子育てや地域福祉実践、さらには学校教育に社会教育実践の視点から取り組む院生が増えてきていることが最近の特徴です。

新任教官の御挨拶



北海道大学大学院教育学研究科
教育臨床講座 教授
中 康 雄

私は、精神科医です。それも児童精神科医を生業にしております。なぜ、北大教育学部に医者が?と思われるでしょう。本人もそう感じていますし、赴任して四ヶ月が過ぎておりますがひじょうに戸惑つております

ドとし、そこにおける教員人事、教育課程、学校行政など教育委員会が所掌するあらゆる教育行政事務の協議会などの教育行政・在り方と、政策分析及び学校経営のシステム改革の実験評価、さらには学校運営研究をすすめています。現在は、日米で研究チームを編成し、学校（自己）評価活動に関する国際共同研究を、日本教育経営学会や元プロジェクトも進行中です。また、教育長及び校長の職能向上プログラムの開発を、日本教育行政学会の特別部会を、日本教育行政学会の特別部会

社会教育研究室近況

民の研究が中心でしたが、九〇年代には大小の都市的地域を対象としたものが大きな位置を占めるようになりました。それまでの基礎構造、つまり地域の経済的・社会的状況をふまえた学習課題の解明を重点としたものから、より実践的な研究、とくに地域づくりに結びつくような学習活動と教育実践、そして社会教育・地域生涯学習計画づくりの研究へと移行してきています（代表的な成果は山田定市・鈴木敏正編『地域生涯学習の計画化（上）』

著『社会的排除と協同の研究』に取り組んできました（代表的なものは、鈴木編『教育』御茶の水書房、二〇〇一、同『地域づくり教育の新展開』北樹出版、二〇〇四）。

こうした中で今まで以上に教員は忙しくなり、とくに山田先生が退官された後がたいへんでしたが、さいわい、宮崎隆志助教授と私に加えて、昨年度から丸山美貴子さんに若手の代表として教員の仲間に入っていただいて活気づいておりま

などに教員や院生が刺激されるといふこともしばしばです。社会教育研究室の「売り物」である調査実習では、相変わらず楽しく、かつ厳しい「長時間労働」を続けておりますが、最近では、学生たちがただ調査し報告するだけでなく、より社会教育や地域づくりの実践にかかわれるような方向を模索しています。そのためこの二年ほどは、インターンシップ的なことを念頭におき、実践活動により継続的にかかわることができるのであります。札幌市で実習活動をしてい

はじめまして。
二〇〇四年三月二九日、
北海道大学大学院教育学研究科
教育臨床講座に赴任
してきました。田中康雄と申し
ます。

私は、精神科医です。そ
れも児童精神科医を生業に
しております。なぜ、北大
教育学部に医者が？と思わ
れるでしょう。本人もそう
感じていますし、赴任して
四ヶ月が過ぎておりますが
ひじょうに戸惑つております

す。
「」で通常は「私の専門
分野」とが、「研究テーマ」
を述べるところでしょうが、
まずは、私のこれまでの軌
跡を記しておきたいと思い
ます。

私は昭和五八年に、生ま
れ育つた栃木県を離れ、旭
川医科大学精神科神経科に
入司しました。はじめて北

海道に来て、それも一月の真冬の旭川に降り立つたときは、寒さよりも今後へ

の不安が大きかつたように思われます。当初は、五年ほどの北海道生活とと思っていましたが、結局気がつくと一九年目にさしかかって

最初の一〇年は、成人精神科医療を中心に行事をしてきました。主に慢性の統合失調症の方々への社会復帰、地域医療を目指していました。看護士と共に毎日議論しては、病棟に三〇年、以上も棲み続いている方を、なんとか地域に戻せないかと悩み続けていました。病棟をすべて開放病棟に変え、当たり前の医療を目指そうとしていたわけです。

次の一〇年は、児童精神科医療に基軸を移し、子ど

す

もたちと遊び、子どもたち

の今と未来を見続ける仕事をしてきました。不登校を示す子どもたちと心を痛める養育者との対話を通して自らの青春期を再確認する児童相談所の臨床を経験しここで発達障害という世界を知りました。診断を告げるしきたりから、次第に診断は、名付けることだけでなく、その新しい名前と共に生きる道をいっしょに探すということに行き着きました。

千葉にある国立精神・神経センター精神保健研究所に赴任しました。臨床の道だけを歩み続けた私にとつて多くの優れた研究者の生き方に向きあうということはとても貴重な経験になりました。そこで過ごしているとき、北大からのお誘いをいただきたいのです。

臨床から研究へ、そして大学しかも人文系学部での仕事に就くということに、多くの迷いがありました。人から教えてもらってばかりいた私が、人になにかを伝えることなどが出来るのだろうか、迷いながら諸先輩に相談もしました。そのなかで、「仕事には、あなたでなくとも出来るものとあなたでなければ出来ないことの二つがあると思います」す。北大で行なうことはきっとあなたでなければ、といふことになると思います」という在る方の言葉で、心を決めることができました。

この言葉を胸に秘め、自分でないと出来ないと決めて、ここ北海道での臨床と教育の融合を目指し、学生たちとともに、多くの事柄を学び、思考し実践して行きました

いと思います。特に、学生たちがここを巣立つとき、なにかしらの哲学を持つて社会に足を踏み出していくと思っていました。その「なにかしらの哲学」の一片を伝えることが、踏み石としての私の役割であり、願いとなっています。

なにとぞ、宜しくお願ひします。

――☆――☆――

「先生、待つて下さい」

「先生、待つてて下さい」



私は八七年の春から九二年の春まで、私費留学生として五年間教育方法講座にてお世話をになりました。指導教官は鈴木秀一先生、高村泰雄先生、須田勝彦先生、後半は大竹一美先生も加わりました。その頃留学生を一気に五、六人も抱え込んで講座にとつては、さぞ荷が重かつたでしょうが、私たちちは先生方の困惑を気にも留めず、無我夢中の日々でした。しかし、今になって脳裏に浮かんでくるのは先生方のお顔ばかりです。

月曜午後の研究会では、私たち大勢の面倒を見ていく普段の心労からか、鈴木先生は時折、私たちを置いてけぼりにして、かすかな軒までかかるほど、居心地のいい境地に浸ってしまわれます。ところが安心して発表を急いだら、突然指摘されて、しかも的を突く質問でしたので、狼狽しながら先生の特技に脱帽したりました。ご自分の研究室も、本など私たちに自由に使わせて下さり、大いに助かりました。感謝したくて、先生がぎっくり腰で大学へ来られない日には、留

学生たちで先生の研究室を大掃除し、本棚の書物も勝手に並べ替えた。ばかりなことをしました。整頓したつもりの部屋が、先生にはどんなにありがた迷惑だったかと気づいた時には、もはや後の祭りでした。今も申し訳なかつたと悔やんでおります。

ハンサムで長身な高村先生は、脳の知の構成、働きを研究なさる超科学的な理論の大家です。ところが、理論的な内容ばかりではなく、文学の世界に潜る筋道も具体的に立てられて、やはり脳の構成が異なつてすばらしいのだ、と妙に納得させられます。そして私たちが困った時、先生はいつも颯爽と助け舟を出して下さいました。私の研究テーマは日本文学作品の読み方なので、鈴木先生のご退官で、博士課程への進学を諦めようかと大変悩みました。小樽商科大学の中中国語教師の公募に対しても、留学の筈なのに、このまま日本に居座るなんて、と戸惑つていきました。先生にご相談しましたら、「やりたいことをやつてみたら」と大いに勇気付けて下さいました。

先生の深いご理解と快いお励ましがなかつたら、今日の自分はなかつたに違ひありません。

ご本人は髪の分量を気にしておられると聞いていましたが、私たち外人学生はそれより須田先生の脳そのものの分量に目を注いでいました。ご年齢が私たちに近いためでしょうか、先生を数学、環境、言語、文学などのジャンルを飘々と出入りする遊び上手なお兄さんのように慕っていました。また、いつ先生の素早いギヤグに襲われるか、スリルの時々でもありました。

貧乏私費留学生ばかりなのに、教育学部在籍中、定山渓、洞爺湖、秋田、京都などの学会に私たち「家族」を全員連れて行って下さいました。先生は空路で往復できるのに、私たちと一緒にフエリーや汽車に揺られました。たとえボケットマネーの総動員でも間に合わない筈なのに、その費用の捻出には、きっと特別な數式があつたのでしょう。それは先生の本当の領域です！ よかつたです。

リュックを背負って早足で出没される大竹先生は

若々しい！ が、研究会が始まると、たちまち容赦ない老練者に変身してしまわれます。そのきびきびした指摘に太刀打ちできないのは惨めですが、決して見捨てる道を差し伸べて下さいます。そして心から研究を愛し、研究に捨て身に打ち込む真摯な姿に感動させられていきました。「先生はこの頃まるやかになりましたよ」との噂を耳にしておりますが、本当ですか？

そうだ！ 修士論文を仕上げ、審査を受ける段階に辿りつきましたが、大勢の前で自分の研究を述べ、かつ質問を受けなければならぬなんて、考えるだけで自分たちはびくびくしていました。そこへ院生会の皆さんが多忙な時間をさして、わざわざ私たちのために集まつて検討会を作つて下さいました。本番に臨むため、それがどんなに有難かったかしれません。

思えば、私費留学生として勉学と生計に明け暮れた日々でしたが、充実そのものの幸せな五年間でした。

そこで出会った先生方は私にとって学問の恩師にとどまらず、人生の大先生でもあります。留学がてきて妙な優越感も持っていた自分が、「人間はみんな同じですたゞチャンスが違うだけですよ」という鈴木先生の言葉を聞いた時、強く胸を打たれました。学生に接する先生方の温かい人間性に触れて、教育者のあるべき姿を思い知らされました。とても真似はできないと思ひますが、先生方のお導きにそむかないように少しづつ近づいていきたいと思います。先生、いろいろ本当にどうも有り難うございました。その内にお伺いしますが、お元気でいて下さいね。

いつも心中は大忙しだ。
員のひとでのように複数の目標で、汗をかきかき動き回ってきた。特殊教育を出发点にして、医学を知らないと身体も精神も応援し变化させられないことに直面した。

ボリオによる肩の脱臼の小学校男児の訓練を任されたが、何をすれば良いのか、「薬と毒」に当るのは何か、その知識と技術を求めてアメリカに留学した。'60年の秋であった。

フルブライト全額支給士学院留学生としてコロンビア大学医学部オキュペーショナルセラピー学科で学び、二年間で卒業し、国際試験をパスした。解剖学、医学部の教授の授業は厳しい。自己ベストを尽くしきける毎日はワークホーリックならぬ、スタディホーリック（？）といえるものであった。

六三年一月一日から二ヶ月、ヨーク市立病院の正規職員として、白衣の生活をした。ハーレムにも患者治癒に出掛けた。

六三年の秋に帰国して、OT（作業療法士）の仕事

を始めた。「日本中に同じ仕事をしている人がいと、い」という事実は行政、教育、医療ほかの関係者に認明し、実証し、講演し、書き、外国人の雇用、そしてやつと創立されたりハビリテーション学院（高卒三年制）の教育を一人で行うことにになった。

どんなに忙しくても、一つ一つ解決するしかない。一〇年間走り回ると、また勉強したくなつて留学し、ボストン大学大学院で修を、また一〇年後にウェン州立大学大学院で博士号を教えた。「精神医学」「米医療制度」「治療的アティビティ」「アルツイマー棟での学生指導」、一年間受け持つた。卒業後に国家試験を受けその結果は個人別に大学報告されるが、学科毎全国平均と対象学生の数が来る。教員の責任がそよう評価されるのは、本人の私には驚きであつ（自己ベストを尽くすしない）。コロンビア大学学部の玄関の「これから

快晴度と深刻度



•55年卒
臨床心理

鈴木明子

エジプトにNGOの平和運動で二年前に行つた。招

かれた家の女主人の母親の顔に深い苦悩の色を観た。

「神様はその人のかつげる肩の巾に合わせて悩みを与える。勝手に悩みを重く大きくなると涙を流されるのは神様ですよ」と英語でい

うと、娘がエジプト語にした。しばらくして私の肩に後から顔を載せた人がいた。母親でもう別人の表情に変つていた。

「空には快晴度、海には深刻（海）度」と空海を使わせて貰つて、（真言宗だからかなア）と生れ育ちの影響力を改めて認めている。

どうやらこの尺度は私のオリジナルらしい。凡人でも努力していれば何かが創られる証拠なのである。

科学的思考法を教えて下さった城戸先生を始め学部創設期の諸先生に深謝する次第である。

（日本福祉大学高浜専門学校校長）
（日本作業療法士協会名誉会員）

同窓会近況報告

'91年卒 教育社会学

宇仁義和

みなさま、ごぶさたして

います。何年か前に新入生

向け学部パンフレットに地

方博物館の学芸員に職を得

た先輩ということで寄稿し

ておりますが、昨年末に転

職してしまい賞味期限切れ

となつております。高校卒

業まで同じ場所に住み、家

から出たくて進学を理由に

京都から北海道に来たのま

ではよかつたのですが、そ

の後は糾余曲折そのものの

人生を送る羽目になりまし

た。そこで近況報告と長い

助走期間の物語におつき合

いください。

まず入学は理三系だった

のですが、専攻を社会学系か生態学系か迷つており教養段階で決定するつもりでした。理由は環境保護の仕事がしたいからで、それに理系文系両方の知識が必要、死後となつた学際的研究を志していたのです。子どもの頃からテレビでは「青い地球はだれのもの」と歌が流れ、サリードマイド被害者のドキュメンタリー

子どもの自然教室、登山ガ

イド助手なども経験し、本

力ネミ油症事件、四日市ぜんそく、と公害列島の最中

でしたので、マスコミ経由の思考回路では当然の選択でした。出した答えは社会

学で、進学は文学部行動科

学科あるいは農学部農業経済学科を予定しました。と

ころが移行点が思つた以上に低く進学先は薬学部となつてしまい、一度は覚悟を決めて勉強するかと思ひ

きや若氣の至りで講義中に内職をするようになり挫折。

転部を認めていた教育社会

学講座に居候をはじめ、翌年転部、卒業となりました。

さて、卒業すれば就職です。転部した後に道内の自然保護団体の事務局の専従職員をしていたため、このまま団体を育てて喰つてい

ます。転部した後に道内の自然保護団体の事務局の専従職員をしていたため、この

まま団体を育てて喰つてい

けないかなど活動家的事想をしていましたが、二回

目の四年生のときに知床で国立公園のエゾシカ生態研究とその自然教育への応用

という委託調査があつて、教育部門をやらなかとい

う誘いを受けました。今か

ら思えばこれが人生の転機で、二年間知床通いを続け、

その間にヒグマ捕獲作業や

もほんのわずかな道路の高

低や地盤の違いによって被

災の程度が劇的に違つてお

り、結局、被害が大きいのは低所得者。地震も洪水も

なんて不公平な災害なんだ

ろうとしみじみ思つたもの

です。

九五年一〇月に念願か

二月からは知床博物館で臨時職員をしてしまい、そのまま斜里町に就職しました。

九五年一〇月に念願かなつてしまい、一度は覚悟を決めて勉強するかと思ひ

きや若氣の至りで講義中に内職をするようになり挫折。

転部を認めていた教育社会

学講座に居候をはじめ、翌年転部、卒業となりました。

さて、卒業すれば就職です。転部した後に道内の自然保護団体の事務局の専従職員をしていたため、このまま団体を育てて喰つてい

ます。転部した後に道内の自然保護団体の事務局の専従職員をしていたため、この

まま団体を育てて喰つてい

けないかなど活動家的事想をしていましたが、二回

目の四年生のときに知床で

国立公園のエゾシカ生態研究とその自然教育への応用



れるようになりました。とくに〇二年に国際捕鯨委員会から招待を受け韓国ウルサンで開催された作業部会に出席したのは自分にとつて大きな出来事でした。はじめての英語での発表で、

日本の鯨類学の大先生と共に著の報告文書を作成したの

ですが、内実は論文指導を受けたようなものでした。

このような経験は学部では得られなかつたもので、作

図作表の作法から手中の

データを限界まで活かした

考察の貪欲さなど目から鱗

が落ちる思いでした。

調査課題を見つけ、研究

上の知己も得て、町立の博物館の学芸員でありながら

国際会議にも参加すること

もできて、ようやく研究者

として、統計や博覧会資料を

もとにコククジラやジュゴンの分布復元がある程度で

きたのは成果と思つていま

す。もつとも決め手となるデータが得られずなかなか発表できない課題もあつて

苦戦しておりますが、

そのうちに野生動物を歴史的に調べるというマイ

ナーナーなテーマが、希少価値からか発表の機会も与えら

として歩み始めたと思ったら、矢先、再び転記が訪れます。
 ○三年四月辞令、保健福祉部保健課高齢者福祉係を命ず、介護保険担当。係長候補という年齢とコンピュータの知識を買っての配属。

器用なことは災いします。

週休二日が保証された役場職員、五時から男で研究にいそしむ道もあつたのですが、一二月末日で日本の日常を演出する地方公務員を

辞職しました。役場には一年以上居たわけですが、就職を諭されたとき、「〇年を単位に人生を考えるのも悪くない」との助言?も

あって正直に実行したという面もあります。現在は、個人事業主で調査研究と執筆などしております。名刺の裏には「オホーツク海沿岸地域の歴史研究、野生動植物、自然環境の歴史調査、海生哺乳類の生態と漂着状況調査、地方博物館へのコンサルティング」と書いていますが、実際に収入になつているのは原稿料がほとんどで、金額もわずかです。

で何か仕事がありましたらどうぞよろしくお願ひいたします。博物館関係では、網走にある東京農業大学才

ホーツクキャンパスが本学世田谷の博物館で行なった企画展示会の助言及び展示作業員を経験しました。

ながなが身の上を述べましたのは、経歴を理解して

いる方が自分以外にだれひとり居らず、かみさんもよくわからずに一緒になつた

ようなので開陳しておく必要を感じたからです。一応、野生動物関係者はしきれ

ですが、この分野は出身が農学部や獣医学部、水産学部がほとんどで、文学部は行動科学科という変わり者

がたまにいますが教育学部というとピンときません。

では、道内で幅を利かせて

いるクマ研(北大ヒグマ研究グループ)、ゼニ研(帯広畜産大学ゼニガタアザラシ研究グループ)かというとそうではない、自保研(北大自然保護研究会)も違う。

「宇仁さんて謎なんですね」などと面と向かつてよく言われます。同窓会のなかにもそのような思いをお持ちの方がいらっしゃるのではないかと考へ、この場をお借りして説明させていただいた次第です。ホームページもございますのでご笑覧ください。

会 務

期 日	会 務 事 項
H15年12月17日	室木洋一元教授弔電
12月19日	北大資料(北の大地研究拠点)配賦 46通
16年2月20日	北大リテラボプリ冬 配賦
2月23日	秋田順康会員(2回生)弔電
3月25日	北大卒業式 会長、幹事長
4月11日	佐渡清隆会員(2回生)弔電
4月24日	リテラボプリ特別号 配賦
5月1日	渡辺隆会員(4回生)弔電
5月13日	幹事会招集と幹事会5/25、議事録作製と郵送
5月25日	山岸正夫会員(6回生)弔電
8月24日	説田猛夫会員(12回生)弔電
8月26日	野々川道子会員(10回生)弔電

会 計 (H15.10.10~H16.5.22)

収 入 の 部		支 出 の 部	
前期繰越	429,283	総会時支払	120,000
総会時収入	179,000	たより製作郵送費	382,690
借入金	5,019	通信費	61,135
会費収入	338,400	雑費	29,650
年間 305人		慶弔費	11,622
		返済	239,375
		小 計	844,472
		※次期繰越	107,230
合 計	951,702	合 計	951,702

※繰越内訳			
小口現金	49,547	郵便為替	57,103
銀行預金	497	銀行預金	83
計	107,230		

北海道大学カードの発行を決定(平成十六年十一月予定)
 本カード利用による北大側収入は学生への奨学金とする。

早稲田大学においては大学側収入 70百万円 OBA会員 6万人 学生会員 一四、〇〇〇人

八一名の参加を得て、八月二十九日、エルムカントリークラブで行われました。

当学部からは十九人が参加して成績は以下のとおりです。(入賞者のみ)

本年度同窓ゴルフ会は一

八一名の参加を得て、八月二十九日、エルムカントリークラブで行われました。

当学部からは十九人が参加

北大生支援のための「北海道大学カード」近く発行へ

北海道大学連合同窓会会長 松田 昌士
北海道大学総長 中村 隆男

(連絡先: 北海道大学総務部広報室 011-706-2606)

北海道大学が法人となった平成16年4月、同窓生と大学を結ぶ組織として、また、北大の社会連携の要として「北海道大学連合同窓会」が結成されました。

北海道大学連合同窓会は同窓生の支援、大学支援のため多くの事業を展開しますが、その第一弾として、日本の将来を担う北大生の支援を主な目的にした「北海道大学カード」を発行することにしております。

具体的には、カード利用還元金を活用した「北海道大学カード奨学金の創設」、「学生の留学支援金の創設」、「課外活動への費用援助」等を考えております。

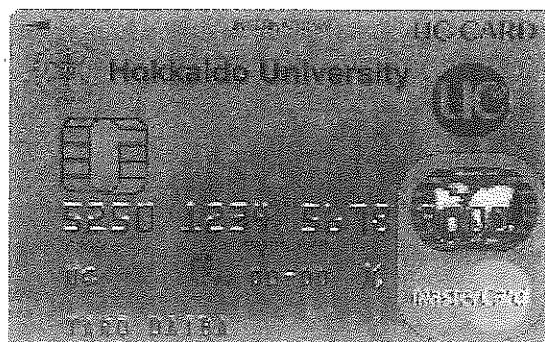
北海道大学同窓生の皆様へは、近く「北海道大学連合同窓会」からダイレクトメールで募集のご案内をさせていただきますので、カード発行事業にご理解をいただき、ご協力方よろしくお願い申し上げます。

北海道大学カードは、国際ブランド「VISA」、「Master Card」からお選びいただけます。世界に一つだけの「北海道大学カード」は、北大人の証明書として、北海道大学図書館の利用証、北海道大学植物園の無料入場証となる他、北大図書刊行会書籍の割引、北海道大学カード協力店からの特典、カード会社からの各種サービス等を受けることができます。

北海道大学カード利用者に料金割引や優待サービスを
ご提供いただける協力店を募集しております。



(シルバーカード見本)



(ゴールドカード見本)